京都大学
図書館機構
概要
2009

京都大学図書館機構概要 2009

CONTENTS

Ⅰ. 京都大学図書館機構の基本理念と目標 ―― 1
Ⅱ. 図書館機構の構成 ―― 2
Ⅲ. 沿　　革 ―― 4
Ⅳ. 蔵書統計 ―― 5
Ⅴ. 図書館機構の事業 ―― 6
Ⅵ. 京都大学の図書館室 ―― 16

I 京都大学図書館機構の基本理念と目標

京都大学図書館機構は、京都大学の基本理念に基づき、世界最高水準の教育・研究拠点に相応しい学術情報基盤としての役割を担うことを使命とする。将来にわたって、京都大学における教育・研究活動を支援し、かつ国内外の学術コミュニティに貢献するために、人類の知的資産である学術情報資源や新たに生み出される知的成果を不断に収集、整理、保存し、関連する情報を発信するとともに、常に最上質の先進的情報サービスを研究開発し、提供する。

そのため、京都大学図書館機構は以下の目標の実現をめざす。

1

京都大学図書館機構は、全学の図書館機能を十全に発揮して教育・研究を支援するために、学生・教職員のニーズを把握し、それに応えることを最優先する。

2

学術情報基盤としてのコレクションおよび情報サービス体制を構築するために、学術情報を適切に選定、収集、整理し、必要な研究開発を行い、それらへの最善のアクセスを提供する。

3

京都大学が日々創造する世界的に卓越した知的成果の蓄積・発信を行う。

4

京都大学が保有する人類の知的資産を将来にわたって利用できるような保存管理体制を整備する。

5

学術情報活用のために質の高い利用者支援システムを構築する。

6

図書館利用者が学術情報を有効かつ快適に活用できるように、全ての図書館スタッフのスキルおよびモチベーションの向上と、設備、施設の充実を図る。

7

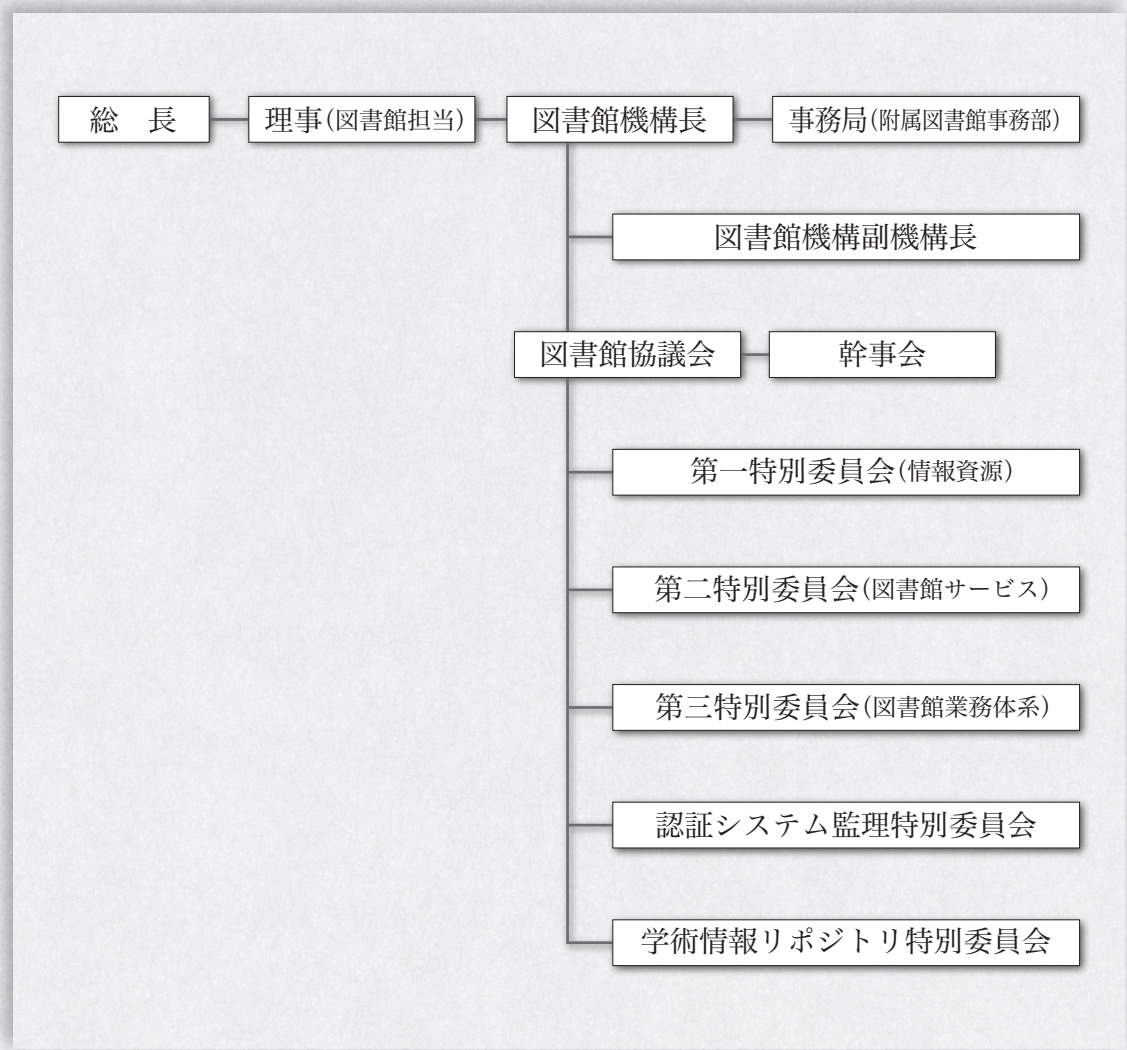
京都大学図書館機構を構成する組織は、相互に、また関連する学内組織との間の協力関係を強化する。

8

国内外の図書館と連携し、相互協力するとともに、社会と地域に貢献する。

II 図書館機構の構成

1 組織図



＊図書館機構長は附属図書館長を兼ねる。

＊図書館協議会構成
図書館機構長(議長)、理事(図書館担当)、図書館機構副機構長、宇治分館長、部局選出の構成協議員、附属図書館事務部長、その他総長が必要と認める教員で構成

＊幹事会
理事（図書館担当)、図書館機構長、図書館機構副機構長、宇治分館長、特別委員会委員長、 附属図書館事務部長、その他機構長が必要と認める者

2 歴代図書館機構長等

■ 理事（図書館担当）

	氏　　名	就　任　～　退　任
初　代	金 田 章 裕	平成 16.04.12 ～ 平成 17.09.30
第２代	丸 山 正 樹	平成 17.10.01 ～ 平成 20.09.30
第３代	大 西 有 三	平成 20.10.01 ～

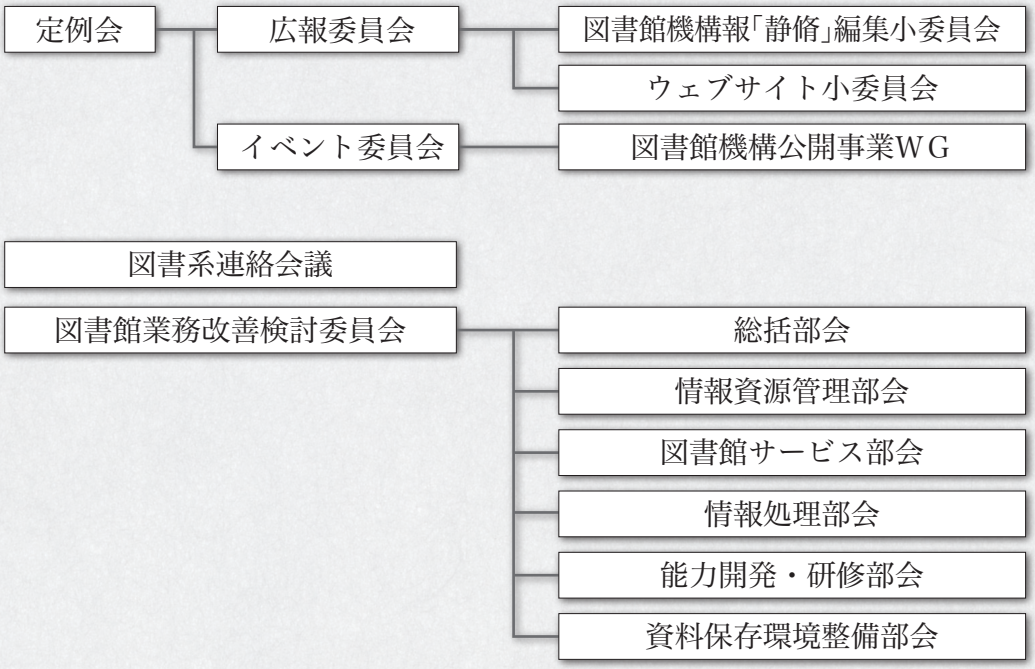
■ 図書館機構長（附属図書館長を兼ねる）

	氏　　名	就　任　～　退　任
初　代	大 西 有 三（工）	平成 17.04.01 ～ 平成 20.09.30
	大 西 有 三（事務取扱）	平成 20.10.01 ～ 平成 20.10.31
第２代	藤 井 譲 治（文）	平成 20.11.01 ～

■ 図書館機構副機構長

	氏　　名	就　任　～　退　任
初　代	森 棟 公 夫（経）	平成 17.06.01 ～ 平成 18.03.31
第２代	岡 田 知 弘（経）	平成 18.04.01 ～ 平成 20.09.30
第３代	岡 田 知 弘（経）	平成 20.12.16 ～

3 図書館機構事務局



沿　革

明治

30(1897)年▶ 6月　京都帝国大学創立、附属図書館設置

32(1899)年▶ 12月　閲覧室開室(11日。この日を附属図書館創立記念日とする。)

41(1908)年▶ 12月　「附属図書館商議会規程」制定

平成

15(2003)年▶ 7月　附属図書館商議会に政策委員会を設置【～平成16年3月】

12月　部局長会議に図書館検討WG設置(主査：金田副学長)　【～平成16年2月】

16(2004)年▶ 3月　図書館検討WGの報告を受けて、部局長会議で「京都大学図書館機構(仮称)」と「京都大学図書館協議会(仮称)」の設置を了承

4月　京都大学図書館協議会発足
(附属図書館商議会規程廃止、附属図書館運営委員会規程を別に制定)

6月　京都大学図書館協議会に京都大学図書館機構規程等検討WGを設置
(主査：丸山協議員)　【～平成17年1月】

17(2005)年▶ 4月　京都大学図書館機構発足
第一特別委員会、第二特別委員会、第三特別委員会を設置

5月　分館の在り方検討特別委員会を設置

11月　公開事業「京都大学の学術情報基盤の未来を考える」開催

18(2006)年▶ 4月　認証システム監理特別委員会を設置

5月　学内デリバリー運用開始(平成19年7月から専用便へ移行)

6月　学術情報リポジトリ試験公開(10月から正式公開)

12月　公開事業「発信する学術情報コンテンツ」開催

19(2007)年▶ 3月　電子ジャーナル・データベース認証システム公開テスト開始(4月から本運用)
「京都大学図書館機構の基本理念と目標」制定

4月　外国雑誌業務センター設置
図書館機構に基盤強化経費の予算措置

10月　公開事業
「大学のたわわな果実がどれほど甘く熟しているかをじっくりと味わうには」開催

11月　公開事業「古典籍がよみがえる」(展示会)開催

20(2008)年▶ 3月　「京都大学図書館機構の将来構想案」発行

4月　電子ジャーナル経費の共通経費化実施
学術情報リポジトリ特別委員会を設置
(学術情報リポジトリ検討委員会：平成17～19年度：を改組)

12月　利用者アンケート調査実施

IV 蔵書統計

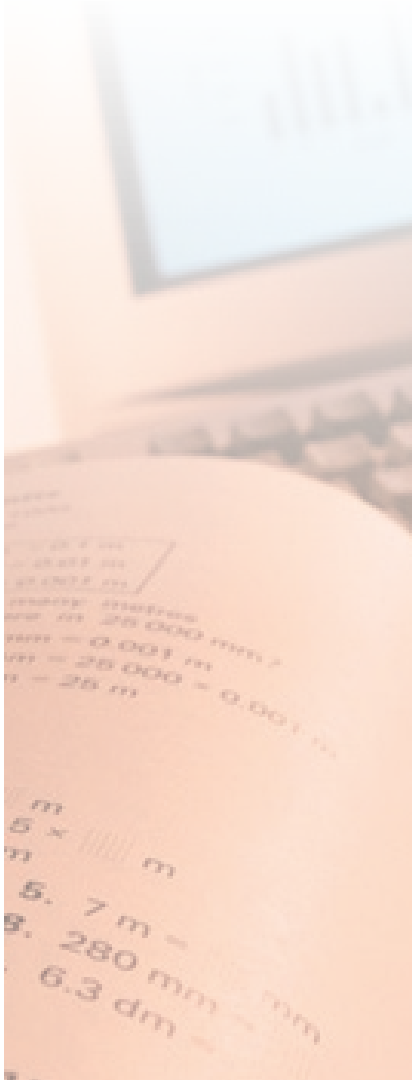
(2009年3月31日現在)

部局名	2008年度受入冊数			蔵書冊数			目録情報入力冊数累計		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計	和書	洋書	計
附属図書館	11,858	4,197	16,055	603,724	263,909	867,633	434,680	136,901	571,581
附属図書館宇治分館	625	845	1,470	11,919	54,432	66,351	9,875	38,308	48,183
文学研究科・文学部	14,115	7,115	21,230	611,155	392,591	1,003,746	376,531	367,207	743,738
教育学研究科・教育学部	3,334	1,027	4,361	89,404	64,765	154,169	84,751	61,865	146,616
法学研究科・法学部	4,602	4,539	9,141	289,848	377,014	666,862	186.560	187,155	373,715
経済学研究科・経済学部	3,747	1,319	5,066	271,884	250,599	522,483	238,149	247,523	485,672
理学研究科・理学部	1,516	2,411	3,927	46,815	187,398	234,213	33,786	119,011	152,797
医学研究科・医学部	2,643	1,105	3,748	87,601	153,953	241,554	80,765	132,772	213,537
薬学研究科・薬学部	170	31	201	11,421	27,722	39,143	10,798	27,672	38,470
工学研究科・工学部	1,901	1,539	3,440	141,465	220,491	361,956	101,943	109,318	211,261
農学研究科・農学部	1,645	1,154	2,799	141,433	125,405	266,838	59,669	54,363	114,032
人間・環境学研究科・総合人間学部	7,514	3,506	11,020	314,479	273,220	587,699	225,992	171,667	397,659
エネルギー科学研究科	65	54	119	4,563	5,334	9,897	4,044	4,311	8,355
アジア・アフリカ地域研究研究科	545	3,523	4,068	12,539	78,436	90,975	12,498	77,500	89,998
情報学研究科	490	347	837	12,651	39,793	52,444	15,433	46,352	61,785
生命科学研究科	0	0	0	54	60	114	30	55	85
地球環境学堂・学舎	411	234	645	1,222	1,021	2,243	1,222	1,021	2,243
公共政策連携研究部・公共政策教育部	125	29	154	651	128	779	704	128	832
経営管理連携研究部・経営管理教育部	245	45	290	893	136	1,029	1,179	149	1,328
人文科学研究所	4,438	947	5,385	483,661	84,858	568,519	190,374	74,101	264,475
再生医科学研究所	0	500	500	833	5,182	6,015	87	638	725
基礎物理学研究所	272	1,274	1,546	9,079	83,588	92,667	6,522	60,154	66,676
ウィルス研究所	0	18	18	308	7,026	7,334	300	2,857	3,157
経済研究所	277	582	859	41,324	37,338	78,662	29,280	31,076	60,356
数理解析研究所	114	3,385	3,499	7,039	80,187	87,226	7,177	77,654	84,831
原子炉実験所	326	325	651	14,579	35,987	50,566	12,637	27,497	40,134
霊長類研究所	88	483	571	7,318	16,956	24,274	5,413	6,719	12,132
東南アジア研究所	491	3,811	4,302	26,959	138,998	165,957	23,442	98,571	122,013
学術情報メディアセンター	14	12	26	5,912	12,715	18,627	3,922	7,584	11,506
放射線生物研究センター	7	51	58	497	2,054	2,551	253	427	680
生態学研究センター	48	199	247	8,548	6,002	14,550	8,578	6,119	14,697
地域研究統合情報センター	6	215	221	7	40,591	40,598	3,426	17,136	20,562
放射性同位元素総合センター	24	3	27	130	60	190	124	49	173
環境保全センター	1	36	37	617	1,372	1,989	253	1,348	1,601
国際交流センター	0	0	0	5	0	5	0	0	0
高等教育研究開発推進センター	42	17	59	2,519	1,004	3,523	2,468	879	3,347
産官学連携センター	110	17	127	605	46	651	602	46	648
福井謙一記念研究センター	1	0	1	58	7	65	58	7	65
フィールド科学教育研究センター	47	38	85	13,813	8,506	22,319	5,481	4,761	10,242
こころの未来研究センター	3	3	6	86	160	246	11	19	30
野生動物研究センター	0	0	0	41	0	41	0	0	0
保健管理センター	0	0	0	7	15	22	0	0	0
大学文書館	0	0	0	696	0	696	696	0	696
計	61,860	44,936	106,796	3,278,362	3,079,059	6,357,421	2,179,713	2,200,920	4,380,633

(注)附属図書館宇治分館は、化学研究所・エネルギー理工学研究所・生存圏研究所・防災研究所の蔵書数等を含めた数

コレクションの構築

電子ジャーナルの安定供給
大型コレクションの整備
学生用図書の充実



電子ジャーナルの安定供給

冊子体主体契約から電子ジャーナル主体契約へ

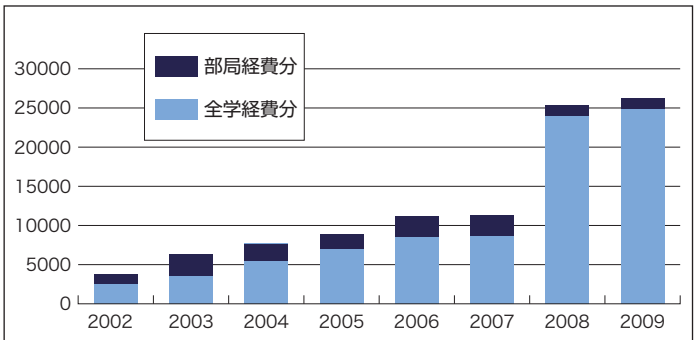
電子ジャーナルは、今や研究のライフラインとして必要不可欠な情報源になっています。しかし電子ジャーナルは基本的に有料で提供されているものであり、しかも、冊子体も含めて毎年値上がりする傾向にあります。

京都大学では、ここ数年、電子ジャーナル経費確保のため、重複調整など様々な対策を講じてきました。

しかし、雑誌価格の上昇にともなう冊子体雑誌のキャンセルが相次いだため電子ジャーナル購読料が上昇するという状況が続きました。そのため図書館協議会では、外国雑誌および電子ジャーナルの安定的供給を図るための枠組み作りを検討し、最終的に以下の方針が2008年度から実施されることになりました。

- 電子ジャーナル主体の契約に移行する
- 共通化対象誌は全学利用の電子ジャーナルに限定する
- 経費は、教育研究基盤経費比率による分担に特殊要因と傾斜を加味する
- 全学認証による利用度が計れるようになれば、経費分担の指標に利用する
- 冊子体購読は各部局の裁量とする

上記に加え、図書館機構から要求していた電子ジャーナル強化策による経費が、共通経費により措置されたため、全学導入電子ジャーナルは11,060タイトル（2007年度）から25,500タイトル（2008年度）、26,000タイトル（2009年度）と大幅に充実させることができました。今後は対象誌の拡充と経費分担方法の検証が課題です。



電子ジャーナル（外国雑誌:有料）タイトル数推移

大型コレクションの整備

大型コレクションとは、全国の国立大学附属図書館が学内・学外の研究者の共同利用を目的に、文部科学省から予算措置を受けて整備した資料です。しかし、2002年度以降予算措置が廃止となったことにより、計画的に大型コレクションを整備することが難しくなりました。

これを受け、図書館機構は2007年度から部局単独で購入することが困難でかつ共同利用にふさわしい大型コレクション等の整備を図ることを目的として、各部局への購入希望の調査と、全学協力経費の申請を行っています。

2008年度購入資料

『古語拾遺』（文学研究科図書館所蔵）

『中国基本古籍庫』（オンライン）

『20世紀に刊行されたマレー語定期刊行物一式及びそのデジタルデータ』（地域研究統合情報センター所蔵）

『The Making of the Modern World（ゴールドスミス・クレス両文庫所蔵社会科学系学術図書データベース）』（オンライン）

『The Making of Modern Law Legal Treatises 1800-1926（近代英米法文献データベース）』（オンライン）

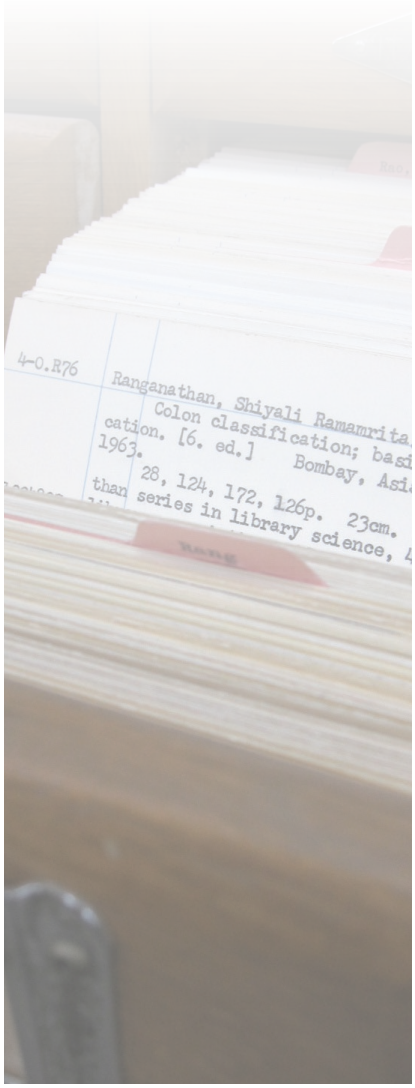
学生用図書の充実

学生用図書の整備は、教育の実施体制に関する目標を実現するための方策として、本学の中期計画に掲げられています。図書館機構は、学生一人当たり年間１冊の整備を目標に、新刊図書を中心に全分野からバランスよく基本的な学習用図書を収集し、学部学生の利用が多い附属図書館と人間・環境学研究科・総合人間学部図書館に配備しています。

年度	学生用図書購入冊数	学生数	学生一人当たりの購入冊数
2005	11,995	13,254	0.91
2006	12,648	13,278	0.95
2007	12,695	13,381	0.95
2008	17,093	13,399	1.28

アクセスの提供

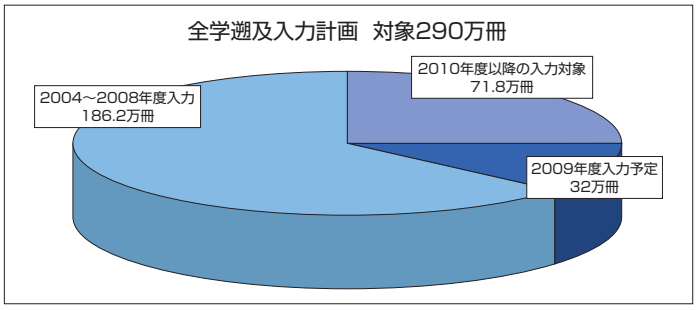
全学遡及入力の推進
全学共通科目「情報探索入門」



全学遡及入力の推進

京都大学は、大学創設以来110年に亘って貴重な図書館資料を収集・蓄積し、その蔵書数は国立国会図書館、東京大学に次ぐ国内第3位の635万冊です。図書館機構では、図書館資料の利用を促進し、資料への最善のアクセスを提供するために、2004年度から2009年度までの中期目標・中期計画として第1期の6ヵ年計画を策定し、全学的な取り組みとして図書の目録情報の全学遡及入力事業を進めています。

第1期計画は2003年度末時点の未入力図書290万冊のうち、全国総合目録データベースに書誌データがあり、比較的容易に入力できる図書を対象に210万冊を入力する予定です。2010年度からの第2期計画では、書誌データ作成が必要な所蔵資料を対象に入力を進めていく予定です。

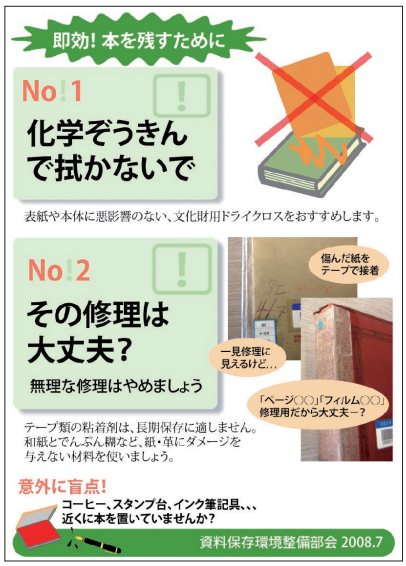


全学共通科目「情報探索入門」のサポート

「情報探索入門」は1998年当時の長尾真総長と附属図書館の発案のもとで開始された授業科目です。全学部の学生を受講対象にした京都大学初の学術情報リテラシー専門科目で、複数名の教員による「分類」「目録」等主題ごとのリレー式講義と、図書館やパソコンを使っての演習があります。毎年各部局の図書館員（主として若手職員）10数名が、担当教員とともに演習問題の作成等演習をサポートし、授業に深く関わっています。この科目は学生からも高い評価を受け、2007年度からは図書館機構提供の授業科目として継続しています。

資料保存の取り組み

近年、附属図書館や部局図書館室の書庫で、カビの発生が確認されたり、水損事故が起きたことを契機として、これまで以上に資料保存に対する意識が高まっています。2007年1月に附属図書館研究開発室から「京都大学図書館機構・資料保存環境調査趣意書」が提出され、「京都大学図書館機構所蔵資料保存環境アンケート」が実施されました。このアンケートは、全学の業務改善検討委員会の元に設置された資料保存環境整備部会が分析し、報告書を作成しました。この部会では報告書作成以外に、次のような取り組みをしています。



- 「図書館資料保存環境整備マニュアル(書庫環境編)」と付録「書庫環境チェックリスト」の作成と調査・集計・改善点の提案
- 「即効！本を残すために」ポスター配布

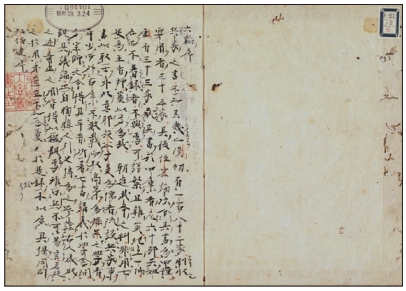
貴重書の修復

京都大学は、国指定の国宝・重要文化財をはじめ多くの貴重な古典籍・古文書を所蔵しています。これらのほとんどが原本であるため、研究の対象として利用されるとともに、研究成果として紹介され、閲覧・公開に供されてきましたが、長い保存年月と利用による虫損・劣化が著しい資料も少なくありません。傷みの激しい資料について、大学として総合的に検討し、緊急性の高いものを教育・研究の資料として活用に耐えうる状態にすることを目的に、貴重古典籍・古文書の修復を実施しています。

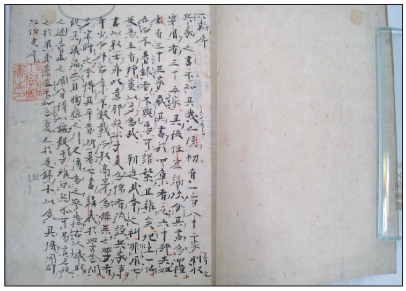
2008年度は、附属図書館が所蔵する貴重古典籍・古文書の中から、傷みが激しく閲覧に供することのできなかった『論語(良枝筆)』(重要文化財、清家文庫)、『六韜秘抄』(重要文化財、清家文庫)、『中院日記』(中院文庫)など、11点を修復しました。

京都大学附属図書館所蔵　重要文化財『六韜秘抄』

＜修復前＞



＜修復後＞



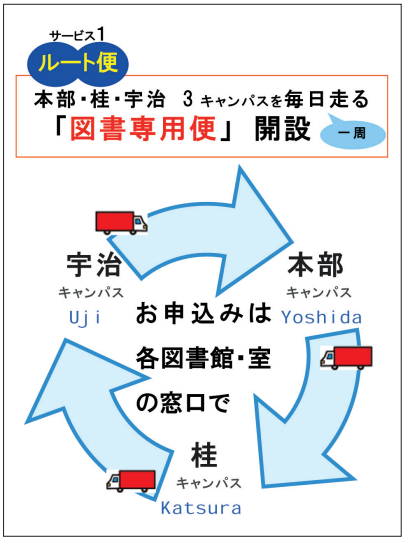
情報サービス体制の構築

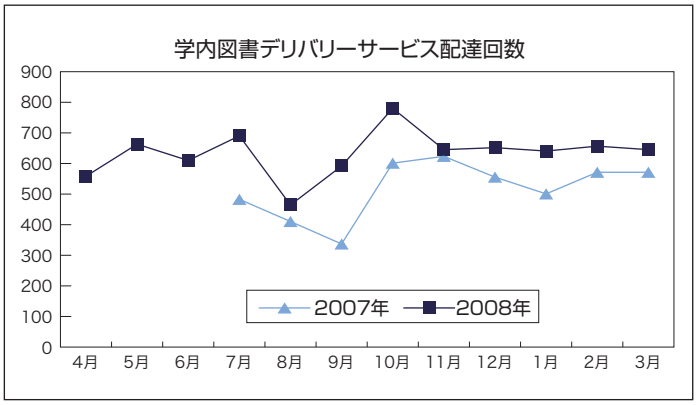
学内図書デリバリーサービス

学内図書デリバリーサービス

図書館機構では、2007年7月から図書の新配送サービスを開始しました。これは、学内の利用者に時間的、経費的負担をかけないで、遠隔地キャンパスから図書を取寄せることができるサービスです。この新配送サービスは、①本部地区、桂地区、宇治地区の３地区を結ぶ配送業者によるルート便（図書専用便）と、②それ以外の遠隔地間を直接結ぶ直送便（宅配便）、の組み合わせで学内の図書館室、施設をほぼ網羅する図書専用配送サービスです。従来の学内便（事務室間文書配達便）では配送できなかった地区も配送エリアに含まれたことで、資料をより安全・確実に、無料で最寄りの図書館室まで取り寄せることができるようになりました。運用開始年度と比べ2008年度は、配送個数が約３割増加し、サービスが利用者に浸透しました。

配送資料も、図書だけでなく、文献複写物、外国雑誌業務センター受入雑誌など順次拡大してきました。2009年6月からは、ルート便を活用した返送サービスも開始しました。これは、かねてから要望の多かった、利用者が離れたキャンパスで借りた資料を最寄りの図書館室で返却できるサービスで、これにより学内利用者の利便性もさらに向上しました。





能力開発・研修の取り組み

図書館機構にとって、図書館利用者から充分に信頼・評価される事業・サービスの充実は不可欠であり、それを実現するためには、図書館職員の資質向上がますます重要となっています。

そのために全学の業務改善検討委員会の元に能力開発・研修部会を設置して、図書館職員の能力開発・資質向上のため、毎年さまざまな研修・講演会を企画立案し、開催しています。

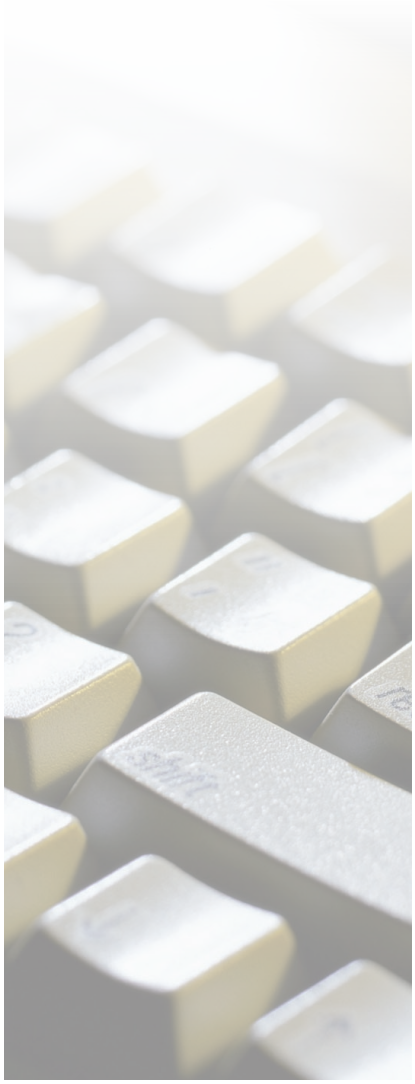
2008年度開催研修・講演会

6月13日	平成20年度 第１回ワークショップ	『京都大学図書館機構のミッション・ビジョンと将来構想案』
7月16日	セキュリティ講習会	
7月16日	個人情報保護に関する講習会	
9月 9日	実務研修「リテラシー」中級編	『閲覧系職員のための電子ジャーナル』
10月16日	実務研修「目録」中級編	『雑誌目録–新規書誌作成、書誌変遷ももう怖くない！』
11月 4日	平成20年度第2回講演会	『図書館における危機管理』
11月19日	実務研修「レファレンス」中級編	『データベースをみんなで学ぶ』
12月11日	実務研修「収書」基礎編	『収書再入門 — 新マニュアルのポイントと最新の動向—』
2月10日	実務研修「資料保存」基礎編	『カビの発生を防ぐ環境整備・カビ発生時の対処法について』
2月23日	平成20年度第3回講演会	『図書館の目指す先に見えるもの –図書館の未来戦略・未来地図–』

実務研修「資料保存」基礎編の様子

利用者支援
システムの構築

KULINEサービス



KULINE サービス
～Web サービスの充実にむけて～

図書館機構では蔵書検索システムKULINE（クライン）を中心としたいくつかのオンラインサービスをKULINEサービスと呼んでいます。

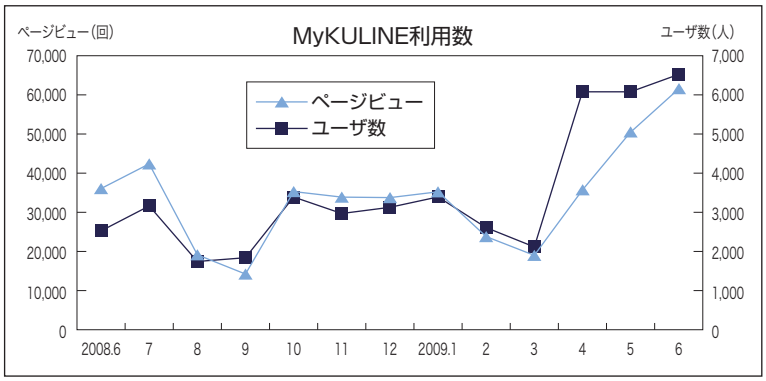
KULINEでは京都大学で所蔵されている資料を検索することができます。従来は紙の図書や雑誌がどこにあるかを検索するためのサービスでしたが、2008年10月からは電子ジャーナルや電子ブックといった電子リソースも検索できるようになり、KULINEから直接電子リソースにアクセスできるようになりました。その結果、現在は紙・電子といったメディアを区別することなく、京都大学で利用可能な資料をKULINEで一元的に検索できるようになりました。

KULINEで検索した資料が貸出中の場合はその場でオンライン予約することもできます。京都大学に所蔵されていない資料は文献の取寄せサービス(ILL)で他大学等から取り寄せることが可能です。また、関心のあるキーワードを登録しておくと、条件に当てはまる資料が図書館で利用できる状態になったときに、メールでお知らせするKULINEアラートサービスもあります。このようにユーザが探している資料が見つからなかった場合のフォローにも力を注いでいます。

MyKULINE（マイ・クライン）では自分が借りている資料を確認したり貸出期限を更新することができます。これらのKULINEサービスのうち蔵書検索と資料の予

約・貸出更新は携帯電話からも利用できます（ケータイKULINE）。

MyKULINEへのログインには他の学内webサービスと同じく、情報環境機構が発行しているECS-IDを使用しています。2008年10月から「全学生共通ポータル」がスタートし、MyKULINE、DEEPMail（webメール）、KULASIS（教務情報システム）の3サービスを一度の認証で利用できるシングルサインオンが実現しました。このポータルへの参加がきっかけとなってMyKULINEがより多くの人の目に触れるようになり、2009年4月から利用数も



飛躍的に伸びています（上図参照）。

ユーザが求める資料を適切に発見・入手できるようなサービスを作り上げていくことが図書館機構の使命のひとつですが、それをweb上で実現していくのがKULINEサービスの役割です。今日では便利なwebサービスが次々と登場しています。図書館機構でもwebに慣れ親しんだユーザの利用スタイルと潜在的なニーズを把握し、それに応じた機能の向上やユーザインタフェースの改善を続けていきたいと考えています。さらに、説明がなくても直観的に使えるシンプルなサービスを実現していくこともKULINEサービスの課題のひとつです。京都大学では図書館機構を含めたさまざまな部署がサービスを提供しており、その結果システムは分散化・複雑化しがちです。大学全体のサービスの一部としてKULINEサービスを提供していくという視点が重要です。図書館機構ではこれらの課題を解決するために、積極的に他大学のシステムだけでなく優れたwebサービスについて情報収集し、よりよいKULINEサービスの提供に取り組んでいます。

知的成果の蓄積・発信

機関リポジトリ

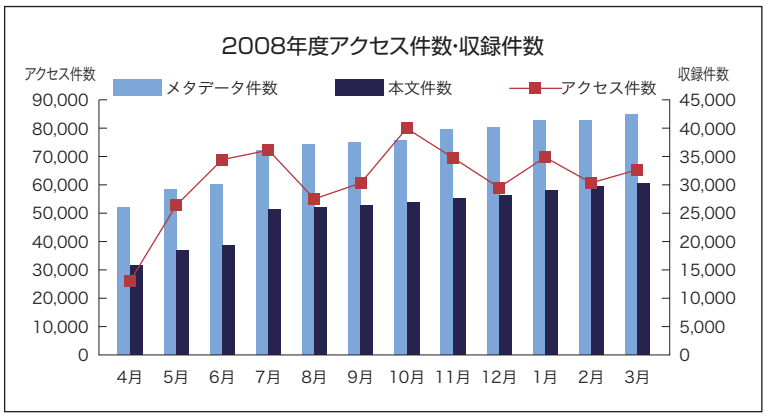
京都大学学術情報リポジトリ「KURENAI」

京都大学図書館機構では、京都大学の研究・教育成果を社会に発信する論文アーカイブ「京都大学学術情報リポジトリ（KURENAI）」を構築し、2006年からインターネット上で公開しています。

KURENAIでは、日々創造される本学の研究・教育成果（学術雑誌掲載論文、学位論文、紀要論文、科研費報告書など）を電子的に収集し、永続的に蓄積して、誰もが無料で読めるように公開しています。

本事業を通じて、図書館機構は本学の中期目標・中期計画にある「研究活動の成果を広く社会に還元する」や「学術情報の公開を通じて、社会に対する説明責任を果す」といった目標・計画を支援するとともに、本学の研究活動や研究者を広く社会にアピールしています。

2008年の1年間にダウンロードされた論文の件数は60万件を超え、月平均約51,000件のアクセス数がありました。



KURENAI 2008 年度のおもなトピック

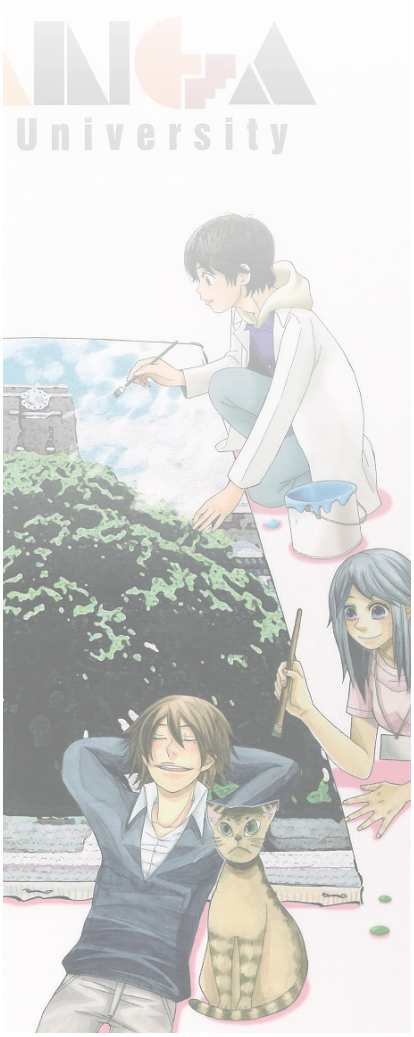
・益川敏英京都大学名誉教授のノーベル物理学賞受賞論文を公開 （2008.10.9）
・マンガによる京都大学紹介冊子「MANGA Kyoto University」をデジタル版で公開（2008.10.3）
・収録論文数が3万件を突破（2009.3.3）
・京大発行電子ジャーナルとして70誌以上の学術雑誌を公開
・学位論文1,000件以上の電子化・公開
・CiNii（国立情報学研究所の論文データベース・サービス ）との連携
・京都大学学術出版会との連携事業による研究書の公開

2008年にもっともよく読まれたコンテンツは、マンガによる京都大学紹介冊子「MANGA Kyoto University」でした。山中伸弥先生のヒトiPS細胞論文(No.2)、益川敏英名誉教授のノーベル賞受賞論文(No.5)、尾池和夫前総長の著作(No.7)などもよく読まれています。

京都大学学術情報リポジトリでは、今後も論文等を積極的に収集・発信し、本学の研究成果により一層アクセスしやすくなるように努めてまいります。

2008年度アクセスランキング

順位	種別	著　者	タイトル	掲載誌等	アクセス
1	図書	京都大学・京都精華大学マンガプロジェクト	MANGA Kyoto University		7,751
2	雑誌論文	Takahashi K, Tanabe K, Ohnuki M, Narita M, Ichisaka T, Tomoda K, Yamanaka S,	Induction of Pluripotent Stem Cells from Adult Human Fibroblasts by Defined Factors	Cell;131(5),861-872	3,130
3	紀要論文	笠原　勝幸、小田　裕造、飯田　寛和、中村　孝志	人工股関節全置換術(THR)術後の股関節脱臼について	京都大学医療技術短期大学部紀要；19(1),1-9	2,109
4	学位論文	小室　努	超高強度コンクリートを用いた鉄筋コンクリート柱の圧縮特性に関する研究		2,035
5	雑誌論文	Makoto KOBAYASHI, Toshihide MASKAWA	CP-Violation in the Renormalizable Theory of Weak Interaction	Progress of Theoretical Physics;49(2),652-657.	1,983
6	紀要論文	玉木　彰	在宅酸素療法と呼吸リハビリテーション	京都大学医療技術短期大学部紀要. 別冊健康人間学；16,24-34	1,403
7	図書	尾池　和夫	地震（図解雑学）		1,266
8	学位論文	Eu,Seunghun	Porphyrin-and Phthalocyanine-Sensitized Solar Cells		1,228
9	学位論文	川原村　敏幸	ミストCVD法とその酸化亜鉛薄膜成長への応用に関する研究		1,084
10	紀要論文	池添　冬芽	高齢者の体力づくり（第17回健康科学公開講座4）	京都大学医学部保健学科紀要：保健科学；1,39-45	883



VI 京都大学の図書館室

● 吉田キャンパス

本部構内
（電話＝4 ケタは内線 . 外線は 075-753-****）

図書館室名	電　話
01　附　属　図　書　館	2632
04　文　学　研　究　科　図　書　館	2715
05　教育学研究科・教育学部図書室	3016
06　法学研究科・法学部図書室	3114
061　法・国際法政文献資料センター	3109
07　経済学研究科・経済学部図書室	3412
08　経　・　調　査　資　料　室	3416
30　工　学　研　究　科　図　書　掛	5048
31　工　・　工　業　化　学　科　図　書　室	5556
32　工・電気系図書室（吉田）	5360
33　工・建築系図書室（吉田）	5761
34　工　・　地　球　工　学　科　図　書　室	5118
35　工　・　物　理　系　図　書　室	5187
36　工・航空宇宙工学図書室	5810
53　人　文　科　学　研　究　所　図　書　室	6909
55　エネルギー科学研究科図書室	3591
56　情　報　学　研　究　科　図　書　室	5390
57　地　球　環　境　学　堂　図　書　室	5631
58　学術情報メディアセンター図書室	7416
59　環境保全センター図書資料室	7701
63　経　済　研　究　所　図　書　室	7107
71　アジア・アフリカ地域研究研究科 ア　ジ　ア　専　攻　図　書　室	9638

北部構内
（電話 4 ケタは内線。外線は 075-753-****）

図書館室名	電　話
10　理　学　部　中　央　図　書　室	3622
11　理　・　数　学　教　室　図　書　室	3703
12　理　・　物　理　学　教　室　図　書　室	3803
13　理・宇宙物理学教室図書室	3900
14　理・地球物理学教室図書室	3920
15　理・地質学鉱物学教室図書室	4152
16　理　・　化　学　教　室　図　書　室	3966
17　理　・　生　物　科　学　図　書　室	4082
51　農学研究科・農学部図書室	6016
52　農・生物資源経済学専攻司書室	6201
54　東　ア　ジ　ア　人　文　情　報　学 研　究　セ　ン　タ　ー　図　書　室	6990
61　基礎物理学研究所図書室	7007
62　数　理　解　析　研　究　所　図　書　室	7223
84　フィールド科学教育研究センター 森　林　系　図　書　室	6432

吉田南構内
（電話＝4 ケタは内線 . 外線は 075-753-****）

図書館室名	電　話
03　人間・環境学研究科・ 総合人間学部図書館	6525

医学部・薬学部・病院構内
（電話＝4 ケタは内線。外線は 075-753-****）

図書館室名	電　話
21　医　学　図　書　館	4313
22　医学図書館人間健康科学系 図書室（医学図書館分室）	075-751-3911
23　薬学研究科・薬学部図書室	4595
24　再生医科学研究所図書室	075-751-3822
25　ウイルス研究所図書室	075-751-4006
71　アジア･アフリカ地域研究研究科 アフリカ専攻図書室	7816
72　東南アジア研究所図書室	7306
73　地域研究統合情報 センター図書室	9617

● 桂キャンパス
（電話＝6ケタは内線。外線は075-383-****）

図書館室名	電　話
41　工・化学系図書室（桂）	15-2581
42　工・電気系図書室（桂）	15-2344
43　工・建築系図書室（桂）	15-2962
44　工・地球系図書室（桂）	15-3146

● 宇治キャンパス

図書館室名	電　話
02　附属図書館宇治分館	0774-38-3010

● その他のキャンパス

図書館室名	電　話
原子炉実験所図書室	072-451-2311
霊長類研究所図書室	0568-63-0516
生態学研究センター図書室	077-549-8230
フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所図書室	0739-42-3515

http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/

2009（平成21）年7月発行

編集・発行：京都大学図書館機構
〒606-8501 京都市左京区吉田本町　TEL.075-753-2613 FAX.075-753-2629